様式４

平成２７年度　第２回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取養護学校
学校長　野坂　尚史

評　価　日	平成２８年２月１６日（火）
評価・提言	学校の所見・改善策等
１．今年度の自己評価について （1）　重点目標の達成状況 ②平成２８年度全病連鳥取大会に向けた児童生徒、保護者、教職員の連携による大会準備の推進ついて ・保護者をあえて入れているのはなぜか。 ・看護学校には「ボランティア」がある。本校の学生が役立つようなら、募集を検討してほしい。 ・保護者へは、とかく受付等の協力が多い。研究大会に参加できることを検討してほしい。 ③児童生徒の自治能力を高める児童生徒会活動の活性化について ・児童生徒の笑顔は、教職員等周りから認められたからであろう。次へ向かうＢ評価と判断する。 ⑤授業等への ICT 活用の推進について ・実践記録等他校へ知らせているか。 ・「①病弱教育・肢体不自由教育の充実」とも関連するが、エキスパート教員の授業の見える化の取り組みをしてほしい。センター的役割ができる。 （2）説明・公表について ・原案どおりでよい。適切に評価されている。 ・保護者に分かりやすいアンケートを要望したとおり、分かりやすいものになっている。 ２　今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ３　取り組み改善のための提言 ○看護師問題は、学校が変わる転機になる。病弱・肢体不自由児教育について、素晴らしい取り組みをしているので、発信する良い機会ととらえる。 ○学校の課題（施設設備等についても）、障がい者の視点から、保護者も巻き込み、２０・３０年後を見据えて、命に関わることであると声を上げていくことが大切である。 ○保護者と一緒に活動する中でコミュニケーションをとっていくことが大切である。	 ・分科会に PTA 部会があるので、役員を中心に協力を依頼する予定である。 ・看護学校の学生の協力は、有り難いことである。 ・本校のみで決定できないため、全国や中四の理事会へ働きかけたい。 ・今後も児童生徒会活動を継続し、充実していきたい。１８歳選挙権への主権者教育にもつながる取り組みと考えている。 ・県の研究大会で実践を発表したり、ネットワーク事業では、実践を持ち寄ったりしている。 ・一緒に学びたいという意欲が出ており、協力して事例集を出す予定である。 ・紙ベースだけでなく、実物が見える映像による啓発も検討したい。 ・３月末までにホームページで公表する予定である。 ・今後も広報活動を工夫していきたい。 ・戦略事業としての特別支援学校合同文化祭への参加や児童生徒会活動等に予算を執行している。 ・学校の課題について、組織として対応していきたい。また、関係機関・関係者への働きかけ等、保護者と一緒に取組んでいきたい。 ・「合理的配慮」についてもより一層保護者と学校がコミュニケーションをとってつながり、取り組んでいきたい。